

蒼穹NEWS No.2

関西インカレ総括号

平成16年6月3日発行



~~~~ 目次 ~~~~

1. 主 将 挨 拶
2. 監 督 挨 拶
3. 関西インカレ対校得点
4. 関西インカレ詳細
5. 新入部員紹介

主将挨拶

先日行われました関西インカレにおいて、1部校の座を無事守ることができましたことを報告いたします。獲得した点は36点、12校中8位の成績で、事前予想と比べると善戦したといえます。大舞台で大幅な自己記録更新を成し遂げた選手も多く、実りの多い大会でありました。

その一方で、強豪校との選手層の差、力の差を痛感させられたことも事実です。大半の種目では苦しい戦いを強いられました。ただ、一部の雰囲気に触れて、部員は皆、大いに刺激を受けています。来年はまた一步、上位との差を縮めてくれることでしょう。

さて、現在京大陸上部では、2ヵ月後に北海道の地で行われます七大会にむけて、各自が集中して練習に取り組んでおります。関西インカレの結果を勢いに、去年は惜しくも成し遂げられなかった優勝を、今年こそ勝ち取りたいと思います。ご期待下さい。

京都大学陸上競技部主将 磯島 弘

監督挨拶

今回の関西インカレは多くの選手がベストあるいはベスト近くの結果を残し、また、男子総合では8位になるという好結果に終わりました。

しかし、一部校の選手との実力差を実感させられた大会でもあり、好成績であったことを手放しで喜ぶことはできません。しかし、今回の関西インカレで得られた経験を活かして、自分たちに何が足りないかをしっかりと考え、一部でより上位を狙えるチームになっていきたいと思っております。

蒼穹会の皆様にはこれからもどうぞ、ご支援・ご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 八木 美典

第81回関西学生陸上競技対校選手権大会

男子1部総合成績

1位	京都産業大	190点
2位	大阪体育大	125.5点
3位	関西学院大	124点
4位	立命館大	112点
5位	関西大	70点
6位	天理大	47点
7位	同志社大	40点
8位	京都大	36点
9位	近畿大	33点
10位	神戸大	25点
11位	摂南大	23.5点
12位	龍谷大	11点

男子1部トラックの部

1位	京都産業大	151点
2位	立命館大	91点
3位	関西学院大	67点
7位	京都大	25点

男子1部フィールドの部

1位	大阪体育大	67.5点
2位	関西学院大	59点
3位	天理大	44点
11位	京都大	3点

男子1部混成の部

1位	関西学院大	22点
2位	京都大	8点
3位	京都産業大	7点

男子2部総合成績(上位のみ)

1位	関西外国語大	109点
2位	大阪大	108点
3位	大阪教育大	89点
4位	甲南大	80点
5位	大阪経済大	72点
6位	太成大	60点
7位	和歌山大	47点
8位	京都教育大	31点

女子総合成績

1位	大阪体育大	158.5点
2位	立命館大	105.5点
3位	甲南大	75点
	京都大	0点

第1日目 4月28日(水) 長居周回

ハーフマラソン決勝

1位	村刺 厚介	(京都産業大)	1.07.44
2位	稲井 義幸	(立命館大)	1.07.45
3位	井川 重史	(京都産業大)	1.07.52
15位	渡邊 敬宏	(京都大4)	1.09.13
23位	相澤 泰隆	(京都大M1)	1.12.28
	西村 好康	(京都大4)	DNF

男子ハーフマラソンは、最高気温22と、前日までの暑さが信じられぬような天候の中で行われた。例年通り長居競技場の周回を7周半するコース。

はじめの1周はゆったりとしたペースで、大集団となってレースが展開する。2周目にペースが上がると相澤が少し苦しそうな表情を見せる。いまひとつ体が動かなかったという相澤。6kmを過ぎるあたりで徐々に先頭から遅れ始め、その後は我慢のレースとなった。

一方、この日絶好調だった渡邊は、6周半を走り終えるまで先頭に食らいつくという好走を見せる。ラスト1周で引き離され、得点には届かなかったものの、今年の3月に出した自己記録を更に縮め、1.9.13と好タイムでゴールした。

また、故障がようやく癒えてきたエース・西村は6kmを過ぎたあたりで棄権。西村はレースから長い間離れている。そのため、「この試合で試合勘を取り戻したい」と語っていたのだが、先頭集団を引っ張るなど、積極的な走りをし、関カレ本戦でも戦える目途がついたと、満足そうな表情を見せていた。(山本)

第2日目 5月20日(木) 長居第2

4×100mR 予選(3組2着+2)

森村あかね・海野益代・滝上伸子・岩瀬祥子
3組4着 56.58

前日のバイク事故により北川を欠く中での苦しいレースとなった。本来の跳躍に比して走力がやや劣る森村は、他チームにわずかながらスピードが及ばず離されてバトンをつなく。二走海野は病みあがりながら他チームに喰らいつく走りを見せ、チームの士気を上げる。滝上は予想通りの苦しいレース展開の中粘り、アンカーにつなく。四走岩瀬は中距離ながらアンカーをこなし、その実力どおりの走りでゴールした。全体的に苦しいレースであり、また雨天ということもあったが健闘したと思う。(中尾)

4×100mR 予選(2組3着+2)

松井延行・堀江匠・花谷直人・北垣卓
2組DSQ 参考42.33

男子四継予選は、一走松井、二走堀江、三走花谷、四走北垣のオーダー。第七レーンからのスタートである。今季に入って公認で10秒台を記録し好調な松井はスタート直後から予想を上回るスピードで周囲と差をつけ、一走としての責を全うした。が、二走の堀江が予想以上の松井のスピードと悪天候にマーカーの確認を誤り、痛恨のバトンミス。一走の松井は130m近く走る結果となった。三走の花谷は実力どおりの走りで他チームに追いつき、アンカーの北垣の必死の追い上げも届かず最下位でゴール。結果は1-2走間のオーバーゾーンで失格となった。(白方)

女子1500m 予選(3組3着+3)

山下里絵(4) 2組11着 5.09.18

雨の降る中、女子1500m予選が行われた。山下は集団の一番後ろについて、前の選手の様子を見ながら300mを通過。ここで前の選手を一人抜き、そのまま同志社の選手にくっついていく。800mを2分41秒で通過。先日ベストを出した京都インカレとほぼ同タイム。まだ足は動いていた。

1200mでずっとついてきた選手をぬき、ラスト一周の鐘が鳴った。同大の選手に抜き返されはしたものの、ラストを粘りきって、関西インカレという大舞台でベストを更新することができた。

(中村な)

ハンマー投げ決勝

1位	花口 章裕	(京産大4)	59m28
2位	新谷 聖	(天理大4)	58m58
3位	杉村 宣彦	(大阪体育大3)	57m13
12位	木村 克也	(京都大3)	34m49

木村[32m56-34m49-33m17]

今回、自己ベストの更新を目標に出場した木村であったが、1投目は33メートル台、2投目は34メートル台、3投目は32メートル台と、自己ベスト記録の36メートル台に大きく及ばなかった。体調自体は悪くなく、雨天によってサークルが滑ることもそこまでなかったようなのだが、精神的な弱さが出たようだ。練習では38メートル台まで投げられていたので、この結果は残念である。(田中)

4×400mR 予選(2組3着+2)

村地優樹・堀江匠・花谷直人・水谷太郎
1組5着 3.16.29

ますます強まる雨足の中男子一部マイル予選一組が出走。一走村地は、各チーム強豪集う一走の中で前半から積極的な走りで、二走以降に勝負を託す。二走堀江も懸命に走り、マイルチームの意地を見せ、

三走花谷は普段の後半追い上げ方の走りを捨て、前半から他チームを猛追する気迫の走り。四走水谷も好走するが、強力な一部マイルチームのアンカーとの差を詰めきれず五位でゴール。悪天候の中、蒼穹記録に迫る当日の選手の奮闘も去ることながら、事前の走順検討も含め万策拔かりないレースであったが、結果は八位天理大と0"28差で決勝進出を逃す苦い結果となった。(瀬々井)

第3日目 5月21日(金) 長居第2

棒高跳 決勝

- | | | | |
|----|-------|--------|------|
| 1位 | 山田 裕司 | (関学大2) | 4m90 |
| 2位 | 辻 直樹 | (摂南大4) | 4m80 |
| 3位 | 濱田 晋也 | (大体大1) | 4m80 |
| | 平野 聖 | (京都大4) | 記録なし |

京カレでの大幅記録更新で期待をされていた平野は自己ベスト+70cmの4m40からのスタートにも関わらず、積極的な良い跳躍を見せてくれた。1発目からの挑戦ということで、残念ながら記録を残すことができなかった。しかし、跳躍の形も良くなっており、4m付近まで越える跳躍も見せてくれた。1部での経験を活かして、今後さらに高いベストを出してくれるだろう。(高橋)

女子 100m 予選(6組3着+6)

滝上 伸子(4) 2組7着 14.16 (-0.7)

女子100mには滝上が出場。前日とは打って変わって晴天の中での競技が行われることになった。やはりさすがに苦しいレースになったがスタートではまだまだあまり他の選手に離されることなく、よいスタートを切った。その後は他選手と差が広がる一方のレース展開となってしまった。しかし、タイムは14"16となかなかのものであったので、今後のレースにつなげてくれるだろう。(石田)

100m 予選(4組3着+4)

松井 延行(3) 1組4着通過 10.96 (+0.5)

100mには先日の奈良県選手権で10秒台をたたき出し好調の波に乗る松井が出場。持ちタイムでは厳しいものの、好調な勢いで予選突破が期待される。天候としては絶好のコンディションに恵まれた中競技は行われた。

松井は得意のスタートで一気に加加速し、先頭に喰らいつく。中間モリラックスしており、課題であった後半の失速もなく四着でフィニッシュ。タイムはセカンドベストの10"96で、見事予選を突破した。準決勝では予選を上回る走りでの決勝進出が望まれた。(真鍋)

10000mW 決勝

- | | | | |
|----|-------|---------|----------|
| 1位 | 杉本 明洋 | (京都大M1) | 41.41.26 |
| 2位 | 柏木 裕紀 | (関西大2) | 46.50.13 |
| 3位 | 表 知徳 | (立命館大3) | 46.59.26 |
| 6位 | 田中 祐介 | (京都大2) | 59.19.19 |
| 8位 | 山田 修裕 | (京都大3) | 63.53.41 |

スタートから飛び出した杉本は、関西学生記録保持者の貫禄を見せ、2位以下に大差をつけてゴール。期待どおりのレースを見せた。

田中は中盤から六位をキープ。山田は田中と一周差という位置につけ、関西大と7位を争い、一度は突き放したが、後半に抜き返される。しかし、その後大きく崩れることなく、8位でゴール。

田中は周りに順位争いの選手がなく難しい展開になったが、熱い歩きを見せ、6位でゴール。

合計12ポイントを取り、京大に今大会初得点をもたらした。(加藤)



圧倒的な強さで優勝した杉本

1500m 決勝

- | | | | |
|-----|-------|---------|--------------|
| 1位 | 田子 康宏 | (立命館大3) | 3.45.31(NGR) |
| 2位 | 森田 司 | (京産大4) | 3.50.04 |
| 3位 | 西川 耕平 | (立命館大2) | 3.52.50 |
| 12位 | 西村 好康 | (京都大4) | 4.04.74 |
| 17位 | 三好 達也 | (京都大3) | 4.07.82 |

1500m 決勝は西村と三好の2人が出場した。号砲と共に各選手が飛び出し、中でも立命館の三選手が引っ張る速い展開。300mの通過時点で早くも縦に伸びてくる。西村は四番手、三好は後方ながら食らいつく。

しかし、田子(立命館)のラップ60秒をきるペースには誰もついていけず、田子そのまま大会新記録でゴール。西村は故障明けでのスタミナ不足は否めなかったのか、ラストでついていけず、12位という悔しい結果であった。

一方、三好はじわりじわりと前との差を詰めるも届かず、17位に終わるが、自己ベストに迫る力走であった。(前川)

400m 予選(4組3着+4)

村地 優樹(4)	2組5着	49.53
堀江 匠(3)	4組5着	51.05
水谷 太郎(2)	3組4着通過	48.83

二組村地は健闘するも、強力な顔ぶれの中でレースの流れに乗り切れず、無念の結果。水谷もやはり苦しい組の中でのレースではあったが意地を見せ、準決勝進出を果たした。四組堀江はスタートからうまくレースを組み立て、後半もよく粘りぬき見事自己ベストを更新した。各人一部の中でのきわめて苦しいレースではあったが、冬季練習の全てをこの日のために懸けてきたその健闘は、準決勝進出の水谷のみならず、沈んだ空気の中の部全体の士気を大きく高揚させた。(光安)

円盤投決勝

1位	宮本 和典 (関学大4)	49m89
2位	谷河 史明 (大体大3)	45m05
3位	吉木 雄貴 (大体大1)	43m22
12位	吉崎 敬祐 (京大2)	30m19

吉崎[30m19-29m59-x]

京カレで31m99の自己ベストを出し、農Gの練習でも33mを超える投擲を見せていた吉崎だが、直前の練習で肉離れを起こしてしまい本来の力を発揮できなかった。試合では足を固めていたので、1投目はまだ足が動いていたが2投目以降は足が止まっていた。今回は不本意な結果に終わった吉崎だが、七大戦まではあと2ヶ月あり十分足は治せると思うので、七大戦では表彰台に登ってくれるだろう。(森川)

100m 準決勝(2組3着+2)

松井 延行(3)	1組7着	11.02 (+1.7)
----------	------	--------------

関西の実力者が顔をそろえた男子100m準決勝。その一組に松井が出演。スタートダッシュは同志社の山本がやや遅れた以外は横一線。スタートが持ち味の松井は、他の有力選手に劣らず、中間疾走につなげる。しかし、徐々に差を広げられる結果となった。中盤から後半にかけての走りが再び課題となった。とはいえ、一部の準決勝にまで駒を進められたことは高く評価すべきで、今後の松井の躍進に期待大。(山岸)

三段跳決勝

1位	奥 博詞 (関西大2)	15m58 (+2.2)
2位	青木 雄也 (天理大4)	15m38 (+1.3)
3位	小城慎二郎 (摂南大2)	15m02 (+2.1)
8位	福山 大典 (京大4)	14m56(+1.1)
11位	横矢龍之介 (京大3)	14m04 (+1.8)
	栗村 聡資 (京大M2)	DNS

福山[14m56-x -14m55-x -x -x]

横矢[13m16-14m04-13m90]

期待の福山は残念な結果に終わってしまった。1本目は本人が思わず舌打ちしてしまうような跳躍。2本目は足がうまく合わなかった。問題が起きたのは3本目。跳躍後に足を痛めてしまった。ベスト8にぎりぎり残ったものの棄権。本人、周りとも表彰台を期待しただけに非常に残念な結果になった。

横矢は1本目ではチグハグな感じの跳躍だったが、2,3本目には何とかまとめてきた。しかし本人の納得のいくような跳躍ではなく、ベスト8にも残れなかった。まだまだ先があるのでこれからに期待。(松久)

10000m 決勝

1位	村刺 厚介 (京産大4)	29.57.06
2位	稲井 義幸 (立命大3)	30.03.85
3位	井川 重史 (京産大3)	30.08.39
	西村 好康 (京大4)	DNF
	宮木 貴志 (京大3)	DSQ

スタート直後から後方で走る西村と宮木。1000mを過ぎて先頭集団ができ、西村はその集団についてゆく。

一番後ろを走っていた宮木は一人を抜くことはしたが、ペースを上げることができず、そのままずるずると先頭と差をつけられていく。そして5000m地点で先頭に周回差をつけられ、一気に抜かれる。宮木に追い返す力はなく、5200mでDSQとなってしまった。

先頭集団が二つにわかれ、その二つ目の集団の後方を走っていた西村も、故障明けのためか5600mで途中棄権をしてしまう。ここで京大勢は全滅となり、得点を取ることはできなかった。(光安)

400m 準決勝(2組3着+2)

水谷 太郎(2)	2組7着	49.02
----------	------	-------

400mの決勝に進出するには準決勝で自己ベスト以上のタイムで走ることが求められる苦しい状況。そのため普段後半に強い水谷だが、今回は記録を狙って前半から果敢に攻める。そのためホームストレートに入った時点では3~4位の好順位につけていたものの、その後普段ラストで見せるキレのよさがなく、むしろ失速していき、順位を下げ決勝進出を逃した。(桑原)



疾走する水谷

十種競技(前半)

花谷 直人(M1) 3148 点
[100m11.36(-0.6)-LJ6m22(-0.1)-SP8m51-
HJ1m65-400m49.66]

垣畑 陽(4) 3272 点
[100m11.47(+0.3)-LJ6m58(+0.0)-SP10m66-
HJ1m75-400m52.88]

得点の期待がかかった十種が勢いよく始まった。両選手ともに絶好調の一日目となった。天候も良く次々とベストやそれに近い記録を出してくれた。

垣畑は絶好調だった。得意なフィールド種目(走幅跳、砲丸、走高跳)を中心にトラック競技(100m、400m)でも高い記録を残してくれた。ほとんどベスト以上の記録で今まで以上の高得点をとり、5位で1日目を終えた。

花谷は得意なトラック種目で100m 11"36、400mは一日目最後の種目にも関わらず49"66の自己ベストで、この種目トップでゴールした。フィールド種目でも自己ベストに迫る勢いで、7位という高順位で1日目を終えることができた。

両選手ともに最高の形で2日目に繋げることができた。(高橋)

対校得点(3日目終了時点)

1位	立命館大	72点
2位	京都産業大	58点
3位	大阪体育大	50点
4位	天理大	29点
5位	京都大	13点
	関西大	

第4日目 5月22日(土) 長居第2

女子 走幅跳決勝

海野 益代(2) 14位 5m21 (-0.0)

海野[5m21-x-4m72]

春先から好調であった海野は蒼穹記録更新を期待され出場した。京都インカレで体調不良による欠場を余儀なくされた悔しさをバネに、今日の海野は大活躍を見せた。5m21という自己ベストを20cmも更新する蒼穹記録をうちたてた。しかし、彼女の實力はこんなものではないはずだ。着地の仕方を改善すればまだまだ伸びるであろう。これから夏に向けて、更なる記録更新に期待がかかる。(森村)

110mH 予選(3組2着+2)

佐藤真一郎(M1) 1組3着 15.05 (-0.1)

尾崎 禎亮(4) 2組7着 15.80 (-0.6)

佐藤は予想に反し、苦しいレース展開となった。途中では一位に大きく離され、最後のハードルを越えた時点までは四位と苦戦したものの、ゴール直前で二位が負傷し後退。辛くも三着でゴールし、決勝進出に望みを託す。が、結果惜しくも予選突破ならず。

尾崎はスタートは横一線であったものの、やはり苦しいレースとなり、一部の力を見せ付けられるレースとなってしまった。しかし一部の大舞台で大いに健闘した。(北垣)

3000mSC 決勝

1位 辻 裕樹 (京産大4) 8.58.56

2位 佐藤 章徳 (京都大M1) 8.58.91

3位 菅家 幸太 (京産大4) 9.00.24

9位 山崎 圭介 (京都大M2) 9.20.65

レースが始まるとやはり京産大が集団を引っ張りだした。序盤、佐藤は先頭に、山崎は中盤につける。1000mトップの通過は2分53秒、佐藤は依然として先頭集団、山崎は2分58秒で通過する。

レース開始から5分あたりで徐々に集団がばらつき始める。2000m通過は5分58秒、佐藤は3位、山崎は10位通過で6分8秒。

ラスト一周、佐藤が勝負を仕掛けトップに出る。しかし、ラスト60mのところ京産大の辻に抜かれてしまう。しかし8分58秒91という自己ベストで2位に、入った。

山崎も自己ベストで9位に入り、二人とも大健闘であった。(木村ゆ)



蒼穹新を記録した佐藤章徳

女子 800m 予選(6組3着+6)

岩瀬 祥子(4) 3組6着 2.37.32

スタートから積極的に飛ばして、400mを73秒で通過した。さすがに関西インカレをいうレベルの高い試合だけあって、周りの選手のスピードは速く、

岩瀬は途中から一人旅となってしまった。しかし、最後まで粘ってゴールした。

今回は惜しくも目標のベスト更新を果たせなかったが、ラスト一周で切り替えて、いかに持ち直せるかという課題を克服すれば、ベストを更新できるだろう。次のレースに期待したい。(山下)

800m 予選(4組3着+4)

岡本 英也(2) 1組3着通過 1.56.52
前川 真彦(2) 3組6着 1.57.38
磯島 弘(4) 4組6着 1.57.90

一組目に出場した岡本は400mを57秒とトップで通過。ラスト100mで三番手に下がるが、そのままの順位でフィニッシュし、予選通過を決めた。

三組目に出場した前川は400mを二番手で通過するも、周りのハイペースについてゆけず、先頭集団からは大きく離され6位でフィニッシュした。

磯島の出場した四組目もかなりのハイペースでレースが進む。200mで一人を抜いたが、磯島は組6着のゴールとなった。(山本)

砲丸投決勝

1位 花田 章裕 (京産大4) 15m42
2位 中村 佳弘 (京産大3) 15m15
3位 岸本 雄一 (関学大2) 14m71
14位 森川 陽介 (京都大2) 11m97

森川[x-11m97-11m93]

京都インカレにおいて、参加標準突破まであと一歩という記録で竹村を破り、関西インカレ出場を果たした森川であったが、1部で戦うという緊張感から動きが硬くなり思うような投げができなかった。かつ、もともとの課題であった下半身の動きはでたらめで不安を残す結果となった。ただし、ポテンシャルは高く、しっかりと練習を積み、体作り、フォーム形成ができれば、七代の表彰台はもちろん、来年の1部砲丸投げでの入賞も確実に狙える選手であるので、1日も早い復活、そして、大躍進が望まれる。(吉崎)

200m 予選(4組3着+4)

藤井 章輔(4) DNS

当初出場予定だった、藤井章輔はアキレス腱痛と十二指腸潰瘍のために四月中満足に走れず、五月に入って急ぎ調整を図ったが、急ピッチでの調整が裏目に出て直前にハムストリングスの肉離れを再発。やむなく出場断念となった。(中尾)

400mH 予選(3組2着+2)

桑原 昇(2) 1組7着 56.34
水谷 太郎(2) 3組1着 53.15

桑原は一組に登場。緊張のせい、一度目のスタートではフライングを犯してしまう。しかし仕切りなおしのスタートで勢いよく飛び出す。四台目あたりで内

側の選手に抜かれるが、よく我慢してラストも踏ん張り、自己ベストを大幅に更新するタイムでゴール。

水谷は三組に出場。ややゆっくりしたスタートを切り、四台目あたりで内側の選手に並びかけられるが、そこで踏ん張って抜かせない。200メートルを過ぎたあたりでは三番手だったが、そこからじわじわと差を詰め、九台目あたりで一気に前の二選手を抜き去りトップでゴール。持ち前の後半の強さが生きたレースとなった。(村地)

十種競技(後半)

花谷 直人(M1) 2310点

[110mH16.62(-0.1)-DT23m50-PV3m00-JT35m30-1500m4.57.69]

垣畑 陽(4) 2863点

[110mH15.86(+0.0)-DT32m24-PV3m70-JT44m60-1500m4.59.32]

垣畑は前日の勢いそのままに、110mHで自己ベストを更新し組1位でいいスタートをきった。その後、円盤投、棒高跳と自己新、自己ベストタイといいい記録を残し、槍投げ、1500mと集中が途切れることなく、総合3位で表彰台を勝ち取った。6000点という大台を大きく超え今後の活躍も間違いないうだろう。

花谷もベストに近い記録を出し、得意なトラック種目が少ない中でも得点を重ね、最終的に7位を獲得した。まだまだフィールド種目の強化で上へいける。今後の活躍にも期待ができる。

両選手共に1部残留への本当に大きな貢献をしてくれた。(高橋)

十種競技(総合)

3位 垣畑 陽 (京都大4) 6135点

7位 花谷 直人 (京都大M1) 5455点

対校得点(4日目終了時点)

1位 京都産業大 130点

2位 大阪体育大 89点

3位 立命館大 84点

関西学院大

5位 関西大 49点

6位 天理大 34点

7位 京都大 28点

同志社大

第5日 5月23日(日) 長居第2

やり投決勝

1位	堺 大輔 (関学大4)	70m30
2位	鬼塚 和則 (大体大1)	69m72
3位	島井 辰記 (天理大3)	68m58
20位	松田 俊 (京都大3)	48m50

松田[x-48m50-45m56]

今期に入ってから不調の続く松田であったが、悪いながらも持てるコンディションで最高のパフォーマンスを試みた。しかし、加速は全く加速になっておらず、上体は上体で前半分の意識しかできておらず、背筋群を全く使えていなかった。なんとか48m台は持っていったものの七丈に向けて不安の残る投擲となった。だが、1部の強豪の中で試合ができたという経験は大きなものであり、以後彼がどう成長していくかが楽しみである。(吉崎)

女子 三段跳決勝

森村 あかね(2) 14位 10m03 (-0.3)

森村[9m98-10m00-10m03]

今回の目標は10m。調子はよく、助走3本とも安定し、スピードにのっていた。1本目で目標まであと2cm。2本目で10m、3本目で10m03と上がり調子でいき、まだまだベスト更新の可能性は大いにある。三段は高度な技術が要求される種目であり、課題は多いが、森村はスピードをつけることで10m後半はいくことは間違いない。(海野)

走幅跳 決勝

1位	井奥 一樹 (神戸大4)	7m58(+1.3)
2位	白木 成知 (関西大4)	7m44(+2.2)
3位	中居正太郎 (同志社大1)	7m40(+2.4)
7位	杉本 昌大 (京都大3)	7m16(+0.5)
18位	高橋 孝治 (京都大2)	6m53(-0.1)

杉本[7m16-6m97-6m52-7m11-6m93-6m96]

高橋[x-x-6m53]

高橋はこの春先に肉離れをおこし、3、4月はともに練習のできない状態であったが、5月には少量ながら調整を開始し、なんとか当日にはまともに跳べる状態にもってきていた。1、2本目はファールだったが、3本目には大学ベストとなる6m53を出した。

杉本は去年は故障により不本意なシーズンであったが、今回1本目でいきなり7m16の大ジャンプを見せ、自己新を出した。その後実測7m近い記録を出し、見事エイトに残った。4、5、6本目は1本目の記録を更新できなかったものの、4本目は7m11の好ジャンプを見せ、今年の好調ぶりがうかがえた。(北島)

800m 準決勝(2組3着+2)

岡本 英也(2) 1組6着 1.55.34

800m準決勝に残った岡本には決勝進出が期待された。8名のフル出場でレースは始まった。岡本はスタートで少し出遅れたように見える。バックストレートの位置取りでは最後尾。次第にペースは落ち着くが、鐘が鳴った時点でまだ後方。500mまでのカーブで外から上がっていくも先頭との差は縮まらない。逆にそこからじわじわ離され、結局、組6着でのフィニッシュとなった。自己ベストは更新したが、1部の厳しさを思い知らされる結果であった。(前川)



自己ベストを更新するも決勝には進めず(岡本)

400mH 決勝

1位	桐山 一樹 (京産大3)	51.50
2位	大塚 光雄 (大体大3)	51.83
3位	水谷 太郎 (京都大2)	51.94

昨日の予選で後半の猛追で決勝進出を果たした水谷。決勝でもスタートは他選手にやや遅れ、バックストレート後半では内側の選手に並びかけられるなど、スタンドからは苦しいレースに見えたが決して譲らず、カーブに入ったあたりから徐々に追い上げ、一度はハードリングミスを犯したものの、後半は昨日の予選を髣髴とさせる猛追。最後のハードルを越えても、勝負をあきらめず、ゴール。短距離陣初の得点を挙げ、更に表彰台にも上った。(中尾)

5000m 決勝

1位	田子 康宏 (立命館大3)	14.28.12
2位	村刺 厚介 (京産大2)	14.30.75
3位	稲井 義幸 (立命館大4)	14.31.17
9位	西村 好康 (京都大4)	14.58.35
21位	渡辺 敬宏 (京都大4)	16.14.69

はじめ一集団でスタートした後、三周目に西村・渡辺とも先頭集団に離される。その後、西村は故障の影響も見せず、ラスト三周からスパートをかけ、先頭集団からこぼれた選手をどんどん抜いていった。最後は8位には及ばなかったものの、9位という好順位を確保した。

一方、渡辺は三周目意向、第二集団からは離されてしまった。最後までペースを維持できず。試合前の足の痛みも重なって苦しいレースを強いられた。(田中ゆ)

平成16年度新入部員名簿

名前	学部	出身校	種目	高校ベスト(投擲は高校規格)
男 子				
井上 智志	法	神戸(兵庫)	短	100m 11.89 200m 24.21
大野 敦史	工	茨木(大阪)	短	100m 11.08 200m 22.35
岡林 誠治	理	高知追手前(高知)	短	400m 52.
金村 進介	工	天王寺(大阪)	短	
北野 佑樹	農	若狭(福井)	長	
木村 善則	文	津西(三重)	中	800m 2.06.26 1500m 4.32
吉良 佳晃	工	篠山風鳴(兵庫)	跳	三段跳 14m34 走幅跳 6m36
七野 雅史	工	大阪星光(大阪)	短	
末長 将志	農	明星(大阪)	長	1500m 4.25
高木 健次	農	筑紫丘(福岡)	長	5000m 16.16
高瀬雄一郎	経	多治見北(岐阜)	跳	
田端 康平	工	須磨東(兵庫)	跳	走高跳 1m85 走幅跳 6m18
野々垣春戸陽	医	虎姫(滋賀)	投	やり投 53m50
萩澤 佑樹	工	東大寺(奈良)	短	110mH 15.19 走幅跳 6m59
福山 拓郎	工	小倉(福岡)	長	5000m 15.42
藤崎 淳	理	長田(兵庫)	短	400m 50.41
山田 裕	工	天王寺(大阪)	短	100m 11.42
山本 貴之	工	修道(広島)	投	やり投 54m50
吉川浩太郎	工	修猷館(福岡)	長	5000m 15.57
葭中 聡	法	大阪星光(大阪)	中	800m 2.07 400m 52.9
女 子				
奥村 優子	文	徳島文理(徳島)	マネ	2回生
河合 春菜	医	三国丘(大阪)	跳	
川口 紗弥香	総人	鳥取西(鳥取)	長	
中村 有里	工	兵庫(兵庫)	長	1500m 5.21 3000m 11.12
林 奈央	理	三国丘(大阪)	長・跳	
前川 奈央	農	宝塚北(兵庫)	マネ	
横田 裕子	工	白陵(兵庫)	中	



蒼穹ニュース 平成16年度 第2号

平成16年6月3日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：高橋孝治・中尾太郎・山本直・吉崎敬祐（副務）

特別協力：森一・田中齊太郎（学連員）・滝上伸子（体育会員）

山田修裕（記録係）・山下輝芳（HP係）

写真担当：石田真大・松久佳弘・森川陽介

陸上競技部 HP <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/>

蒼穹ニュース HP <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/soukyu.htm>

陸上競技部記録 HP <http://homepage2.nifty.com/bridge-as/>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス discus-k@amber.plala.or.jp（吉崎）